人 権 N E W S

第39回全国中学生人権作文コンテスト三重県大会表彰式が開催されました

昨年12月14日に、津リージョンプラザお城ホールで、第39回全国中学生人権作文コンテスト三重県大会の表彰式と朗読会が開催され、多くの市民の皆さんに参加していただきました。この大会は、津地方法務局と三重県人権擁護委員連合会が主催し、次代を担う中学生が日常の家庭生活や学校生活などの中で得た体験に基づく作文を書くことを通して、人権尊重の大切さや基本的人権についての理解を深め、豊かな人権感覚を身に付けることを目的として開催されています。

表彰された作文の一つに、車いすで生活している先生との出会いについての話がありました。その内容は、先生のことを「車いすの先生やのに、分かりやすく教えてくれてすごい」という、自分の中に障がい者に対する偏った見方があったこと、それを家族との会話を通して見直すことができたというものでした。この作文の朗読を聞いた参加者の一人は、「私自身も自分の中にある決めつけた見方を見直すことができた。中学生の真剣な思いを直接聞くことができてよかった」と話してくれました。

中学生の皆さんが日常の生活の中で気付いたことや考えたことを通して、私たち大人も共に学ぶ機会をこれからもつくり、人権尊重の輪を少しずつ広げていきたいと思います。

人権イメージキャラクター
人KENまもる君＆あゆみちゃん

人 権 N E W S

「落語家 露の新治さんを招いて津市人権講演会ＩＮ美里」を開催

昨年12月７日に、美里文化センターホールで落語家・露の新治さんを招いて津市人権講演会が開催され、250人の参加者が、笑いと人情味あふれる話を熱心に聴講しました。

露の新治さんは、夜間中学※の設立運動に携わったことをきっかけに、自分のやりたいことをやるべきだと思い落語の世界に入ったそうです。現在、落語や講演活動を通して、自身が学んできた人権の大切さを発信されています。

講演では「血筋などを理由に人を分け隔てする部落差別は不当なものだ。このような間違いによって不幸になる人をつくってはいけない」

「差別をなくすのは差別をする行為をなくすことだ。私自身、差別をしている自分がいないかを自分自身に問い続けることで、差別しなくても生きていける自分に変わることができた。だから、差別の問題は自分の問題だ」と話されました。

露の新治さんの楽しく、熱い語り口に、参加者は笑顔で、そして真剣に聞き入っていました。最後は「積極的に物事に取り組もうとする心を持つことが大切ですよ」と呼び掛け、講演を締めくくりました。

参加者の感想アンケートには「話の内容を自分自身に置き換えて自分を見つめ直す機会になった」「人権意識の高い世の中にしていきたい」との意見がありました。

津市では、市民の皆さんに人権について考えてもらうため、毎年、市内各所でこうした人権講演会を開催しています。私たち一人一人が、人権問題を自分の問題として受け止め、人権感覚を磨きながら、誰もが生き生きと暮らせる社会となるよう取り組みましょう。

※夜間中学…さまざまな理由で中学で十分な教育が受けられなかった人たちに学びの場を提供するため、夜間の時間帯に授業が行われる学校